

WIENER RING-ENSEMBLE

NEW YEAR CONCERT

ウィーン・リング・アンサンブル
ニューイヤーコンサート

2014.1.6 Mon 19:00 サントリーホール

Monday, January 6, 2014 at 7 p.m. Suntory Hall S¥9,000 A¥7,000 B¥5,000 (税込)



MEMBERS

- ライナー・キュッヒル(ヴァイオリン)
Rainer Küchl, *Violin*
- ダニエル・フロシャウアー(ヴァイオリン)
Daniel Froschauer, *Violin*
- ハインリヒ・コル(ヴィオラ)
Heinrich Koll, *Viola*
- ロベルト・ナジ(チェロ)
Robert Nagy, *Cello*
- ミハエル・ブラデラー(コントラバス)
Michael Bladerer, *Contrabass*
- カール=ハインツ・シュッツ(フルート)
Karl-Heinz Shütz, *Flute*
- ペーター・シュミードル(クラリネット)
Peter Schmidl, *Clarinet*
- ヨハン・ヒントラー(クラリネット)
Johann Hindler, *Clarinet*
- ヴォルフガング・トムベック(ホルン)
Wolfgang Tomböck, *Horn*

PROGRAM

J.シュトラウスII J.StraußII
オペレッタ「ジプシー男爵」序曲
"Zigeunerbaron" Overture

ヨーゼフ・シュトラウス Josef Strauß
ワルツ「天体の音楽」
Sphärenklänge, Walzer

J.シュトラウスI J.StraußI
アンネン・ポルカ
Annenpolka

ヨーゼフ・シュトラウス Josef Strauß
ワルツ「オーストリアの村つばめ」
Dorfschwalben, Walzer

J.シュトラウスII J.StraußII
ポルカ・シュネル「ハンガリー万歳」
Eljen a Magyar

J.シュトラウスII J.StraußII
オペレッタ「くるまば草」序曲
"Waldmeister" Overture

プッチーニ Puccini
オペラ・メドレー
(プッチーニ没後90年記念/「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」などから)
Medley aus La Boheme, Madama Butterfly,
etc (The 90th anniversary of Puccini's death)

ヨーゼフ・シュトラウス Josef Strauß
ワルツ「うわごと」
Delirien, Walzer

ランナー Josef Lanner
ワルツ「モーツァルト党」
Die Mozartisten

J.シュトラウスII J.StraußII
エジプト行進曲
Egyptischer Marsch

レハール Lehar
オペレッタ「メリー・ウィドウ」から
「女・女・女のマーチ」
Weibermarsch

チケットのお申し込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。
ホームページからもお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

カジモト・イープラス <http://kajimotoeplus.com/>

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない
場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 211-873)

e+(イープラス) <http://eplus.jp/wre/>

CNプレイガイド 0570-08-9990

ローソンチケット 0570-000-407

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

便利なケータイサイトもぜひご利用ください。
iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ 対応
チケットもご購入いただけます。

カジモト・イープラス



twitter @kajimoto_News

f <http://www.facebook.com/kajimotomusic>





WIENER RING-ENSEMBLE

NEW YEAR CONCERT

ウィーン・リング・アンサンブル
ニューイヤーコンサート



ウィーン・リング・アンサンブルの愉楽に、伝統の継承を見る

ウィーン・リング・アンサンブル(WRE)のニューイヤーコンサートは、日本の音楽ファンにとって、今やすっかりお正月の風物詩。コンサートマスターのキュッヒル以下、ウィーン・フィルの首席奏者や看板プレイヤーたちならではの演奏から漂う香り、高級な洋酒をたしなんだ時のようなほろ酔い気分…これを味わわなくては1年が始まらない、という方もたくさんいらっしゃると思います。

「ウィーン」という爛熟の文化から生まれたシュトラウス・ファミリーらの愉楽を、同じ文化土壌が産んだ、選ばれし最高級の音楽家たちが演奏する——他に望みえない組み合わせにして初めて味わえる、極上の雰囲気です。

このWREは長く不動のメンバーでしたが、近年は少しずつメンバーの入れ替わりが始まり、24回目の来日を迎えた今回、昔から変わらない顔はキュッヒル、シュミードル、ヒントラーだけとなりました。こうしてなにかが「変わる」というのは

寂しいことではあります。でも考えてみて下さい。ウィーン・フィルは創設から200年近く、その各々の時代に名物プレイヤーがおり、その彼らが去ったあともまた違う名手が加入し、全体の響きも名声も変わらずに今に至っているのです。「伝統」とはかくも偉大なもの。WREでいっても、例えば昨年はそれまでのヘーグナーから変ったホルンのトムベックの、アンサンブル全体を見事に包み込む豊かな響きと職人芸の妙技であるとか、第2ヴァイオリンのフロシャウアーが内声部に活気を注入していたのにファンは注目しましたし、今回もシュルツの逝去(残念でなりません)を受け、ここ数年の逸材と名高い新加入の若きフルーティスト、シュッツにも期待が集まっています。

新しい血が入ることで代謝が高まり、古き良きものは本質を変えることなくさらに先へ進む…「伝統」のあり方というもの、ぜひこういった最良の例にふれることで学んでみたいものです。愉快的気分とともに。

ウィーン・リング・アンサンブル

ウィーンの旧市街を取り巻くこの街ならではののみごとな環状道路、“リング”にちなんで命名されたこのアンサンブルは、まさにウィーンの音楽を演奏するために結成された。

ウィーン・フィルの名コンサートマスター、ライナー・キュッヒルを中心にした、ベテランや中堅が一緒にいる現在の9人は、ウィーン情緒の香り高いシュトラウス・ファミリーやツィーラー、ランナーたちのワルツ、ポルカの演奏で、聴く者をこの上ない幸福感で満たしてくれる。

日本へは1991年に初来日し、引き続き93年以降毎年のように来日。ウィーンでの「ウィーン・フィル ニューイヤー・コンサート」に出演後、すぐに日本へ駆けつけてニューイヤー・コンサートを行い、本場の響きと香りをそっくり日本のファンに届けている。

1998年には長野オリンピック文化・芸術祭参加公演に選ばれ、現地で2回の演奏会を行った。テレビ放映、CDで、日本でもすっかりおなじみの存在である。

2014年は24回目の来日。

- やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、出演者・曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承ください。
- 未就学児のご入場はご遠慮いただいております。
- 団体料金の設定のある公演もございます。詳しくはお問合せください。